



グラント土手の八重桜と1年1組の生徒さんたち

同窓会報 興学

発行所
山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地
小国高等学校内
電話(62)2054
小国高等学校同窓会
事務局

同窓会費の全員 納入で母校存続に 貢献を

昭和三十一年度卒(第八回)
同窓会長

佐藤 祐一



小国は久しぶりに雪の少ない冬を迎えております。

同窓生の皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

団塊世代を中心に地元はもとより、全国各地で激動の変革の時代に懸命の毎日をお過ごしのことと推察申し上げます。

厳しい小国の自然環境の中で高校時代まで心身を鍛えられた皆様方はどこに行かれても動じない強い力が身に付いていることと存じます。

前年度、本校存続の布石を築かれた勝見英一朗校長

が県教育センター所長にご栄転され、新しく竹田眞知子校長が着任され今までの取り組みに加えて県内外の大学教員と連携して「地域文化学」の専門の授業が始まっております。

授業を受けておるのは一年生の五十四人です。

母校も存続の瀬戸際で県教委の示す募集定員の三分の二を上回る五十四名の新入生を迎えることができ、みんな大喜びです。これも偏に特色を出されて真剣に取り組まれた先生方、生徒のやる気、それに同窓会も含めた支援があった成果だと存じます。

本校の生徒がさらに意欲ある学習に取り組めるよう、また、本町にふさわしい新学科の新設も県教委に要望するなど、同窓会も母校存続と未来に引き継がれる高校づくりには本腰を入れる時期到来と存じますので同窓会員全員の会費のご納入を心からお願い申し上げます。

この一年の 取り組み

校長

竹田 眞知子



高一貫教育を推進し、研究をととしてさまざまな実践を行ってまいります。十一月に「公開研究発表会」が開催され、県内外二百名の先生方が参加されました。公開授業や白い森学習発表会を行い、教師の指導力向上や生徒の研究の素晴らしさにお褒めの言葉を多数いただきました。今後この研究成果を活かし、研究を継続させていく予定です。

(2) アメリカへの短期留学

研究の柱の一つ「国際理解教育」では、ロサンゼルスやコロラドへ三年生四名が十日間ほど短期留学をしました。



吹奏楽部とインドネシアからの留学生

ホームステイをしながら英語を学んだり日本語を教えたりと国際交流を深め、英会話への自信もついたようです。短期留学は本校同窓会をはじめ後援会・町当局のご支援があつてこそ実施できると感謝いたしております。

(3) ワープロ検定一級二名合格

教育の柱の一つ「情報教育」では、ワープロ実務検定に挑戦しております。今年は一級二名、二級二十名、三級二十八名が合格しました。特に一級合格者のうち一名が一年生で、本校初の一年

生合格となりました。ワープロ検定の他に、情報処理・簿記・英語・漢字等幅広く資格試験にも挑戦しております。

(4) 山大工学部での共同研究

夏休みに四名が、山大工学部教官のご指導のもと一週間ほど共同研究を行いました。研究テーマも歯車・画像処理・ロボットなどで、基本的な科学技術や実験・製作に携わり、大きな成果を得ております。その中の一名がこの体験から山大工学部を受験し、見事合格しました。本校にとつて久々の国立四大合格となりました。

(5) 「地域文化学」の開講

これまでの「小国学」を「地域文化学」と変え、他地域との比較の中で自分の生活や地域を研究することになりました。研究に当たっては、山大、芸工大、公益文科大等の教官より大変丁寧に分かりやすく指導をいただきました。よりよい町づく

(6) 町民報告会

生徒の活動の様子を町民の皆様に報告しようとして十一月に「町民報告会」を開催しました。生徒代表十四名による実践報告で、生徒の堂々とした発表に賞賛の声が寄せられました。本校は、来年六十周年を迎えます。母校は心のふるさとです。ふるさとを大切に守りさらに発展させていくことをお誓いし、同窓生の皆様に今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。



すばらしい町民報告会でした

(1) 小中高一貫教育公開研究発表会の開催

同窓会の皆様には、日頃より母校の教育振興と在校生の激励のために、特段のご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。四月より勝見校長先生の後任として転任してまいりました。前校長先生同様によりしくお願い申し上げます。皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。ながら、本校の今年度の主な取り組みについてご報告いたします。

平成十三年から文部科学省開発学校指定「連携型小中



東京学芸大学児島邦宏教授より講評

アメリカ短期留学生報告

ベニスハイスクール

自分の考えを大切に
積極的に触れ合う事を学んだ

三年一組 小関 優



私が短期留学を希望した理由は、修学旅行でベニス高校の人たちと会話がうまくできず、悔いが残ったからです。ベニス高校の人がアメフト観戦の時、積極的に質問などをしてくれたのに、私は自分の答えに自信がなく、何も話すことができませんでした。だからもう一度ベニス高校へ行って、自分の考えをちゃんと伝え、コミュニケーションができるようになりたいと思いました。しかし、実際に行くことに決まると、修学旅行とはちがいで、頼れる先生がいないのでとても不安になりました。二人だけだったので、最初は心細かったです。しかし、無事アメリカに

着くと、ホームステイをする家族が迎えに来てくれたのでとても安心しました。初めは緊張して、なかなか話すことができませんでしたが、夕食を一緒につくったり、家の中を見学させてもらったりしているうちに会話をすることができるようになりました。

ベニス高校では、ホームステイ先の生徒と同じ授業を受けました。科学、日本語、英語、歴史、数学の授業に参加しましたが、英語と歴史の授業は全くわかりませんでした。数学は、だいたいい同じところを学習していたし、科学は元素記号が世界共通なのでよくわかりま



ベニス高校の日本語の授業にて

した。日本語では、修学旅行でお世話になったノマチ先生と、ひらがなを書いたり文章を読んだりしました。休日は、パーティーをしたりユニバーサルスタジオへ行ったりして多くの友達とできてとても楽しく過ごしました。英語も自然に聞き取れるようになり、自分の英語に自信ができました。アメリカの人は、積極的に親しみやすく、自分のセンスや考えを大事にし、日本人とはだいぶ異なる印象をもちました。この留学で自分の考えを大切にするのと積極的にふれ合うことの大切さを学びました。機会があれば、もっと英語を勉強してまたロサンゼルスに行きたいと思います。たくさんさんの人のご協力により、とても貴重な体験ができました。本当にありがとうございました。

順応性を身につけて
英語への興味がわいた

三年一組 斎藤 親



お別れパーティーにて

私たちは、三月に約二週間アメリカのロサンゼルスへ短期留学をさせていただきました。修学旅行時とは違い、先生やガイドの方もいないので、自分たちで手続きをし、飛行機に乗る事ができるかとても不安でした。アメリカへ着き、ホストファミリーの人が一生懸命私に日本語で話しかけてきてくれたので、私も積極的に英語で会話をしようと思っていました。しかし、私が思っていたより相手の話す英語が速く、聞き取る事ができず苦労しました。単語をひとつでも聞き取ろうと、相手の顔を見て真剣に話を聞きました。自分の発音がうまくいかず、聞き返されて苦労しました。しかし、

うまく発音ができて、会話が続いたときはとても嬉しかったです。ベニス高校はとても広くて迷いました。生徒数はとても多く、中には障害のある人や車椅子に乗っている人もたくさんいました。ベニス高校ではそのような障害の持っている人のための専用エレベーターがあり、段差にもスロープがついていました。廊下も広く、車椅子の人がぶつかる危険もありません。

授業中は皆自由でした。授業中にご飯やお菓子を食べたり、パソコンを使ったりしている人もいて驚きました。授業自体はしっかりと聞いているようでした。皆個性豊かで、積極的に挙手発言をしていて、日本人とアメリカ人の積極性の違いを感じました。

私は留学で、知らない環境にでも徐々に打ち解けていったので、順応性を身につけることができたと思います。二週間本場の英語に触れることができ、より英語への興味がわきました。

私たちの学校にはALITがいて、英語を話すことがいくらかでもできるので、恵まれた環境にあると思います。これからも英語を勉強し、関わっていききたいと思います。

アメリカ短期留学生報告

ミッチェルハイスクール

期待と不安

三年二組 船山 博道



私は修学旅行であり英語でコミュニケーションをとることができなく悔いが残ったので留学を希望しました。しかし、いざ二週間のホームステイとなると不安もありました。

期待と不安の中ホームステイ先の方々と合流しました。家族の人たちがとても優しく接してくれたので不安がなくなりました。最初はホームステイや学校生活に慣れなくて大変でした。

学校生活ではドイツ語や日本語の授業がほとんどで、その授業の中でも学年がみなバラバラでした。学年が違いうわりにはとても仲がよく驚きました。他にも体育や家庭科の授業にも参加し

ました。体育は男女関係なくサッカーやソフトボールをしていました。男女の仲もとても良かったです。家庭科ではてんぷらを作っていました。日本料理を作っていて日本に関心を持っているのだと思いました。

ミッチェル高校のアメリカンフットボールチームの試合が夜あり、その試合を見に行ってきました。チアリーダーなどいいて応援もとても本格的でした。ホームステイ宅ではアメ



ホストファミリーのマルタ(11歳・5年生)と

リカのスタイルで家の中でも靴を履いたまま生活してきました。一番日本と違うと思ったのは、食事の前を目を閉じて何かを言うということでした。休日にはアメリカの名所に連れて行ってもらいました。そこには世界一のものがたくさんありました。

今回の短期留学では、最初は不安でしたが自分なりにコミュニケーションをうまく取れたと思います。自分からしつかり意思表示をして話さないといけないことを学びました。また、貴重な体験ができて本当に行つて良かったと思います。また行きたいと感じました。この経験をこれから生活に生かしていきたいです。

ミッチェル高校で日本語の先生

三年二組 高橋さゆみ



私たちは二週間、コロラド州コロラドスプリングス



ミッチェル高校 日本語クラスのみなさんと

へ短期留学に行ってきました。現地の高校生の家にホームステイをしながら、平日は一緒にミッチェル高校へ通いました。

学校では主に、日本語とドイツ語の授業に参加しました。私たちが先生となる場面もあり、漢字を教えたりました。日本語の授業の生徒は、特に日本に興味がある人たちなので、自分の名前を漢字で書いて欲しいという要望が多かったです。また、漢字で書いてある服やアクセサリを身につけたり、箸をかんざしのように頭にさしていたり、お洒落に日本を取り込んでいて感心してしまいました。日本人である事に誇りを持

てるようになった出来事でした。

アメリカには、日本にはない行事もありました。二週目にボンファイヤーという夏祭りのような行事があり、その週は毎日何の日と決まっています。パジャマの日には生徒がパジャマで登校していたのが、一番驚きました。ボンファイヤー当日は、ブリスやカラオケなどがあつて驚きました。

休日には、首都のデンバールの博物館や、地元の観光名所に連れて行ってもらいました。いままで見えた事のない景色やものを見ることができ、感動しました。

アメリカでの二週間は短く感じましたが、この短期間で英語だけでなく文化も学ぶ事ができたし、人の温かさにも触れる事ができました。行く前は不安もありましたが、日に日にそんな不安もなくなり、毎日がとても充実していました。また、韓国、アフリカ、メキシコの人とも英語を使って話す事ができ、英語の大切さを改めて知るとともに、もっとと英語を話せるようになりたいと思うようになりました。たくさんの方のご支援で短期留学に行けた事に感謝し、この経験を生かしていきたいです。

恩師回想

小国の思い出



高橋 宗伸 先生

(昭和四十九年〜五十五年)

小国高校勤務の七年間は

小坂町の公舎にほとんど一人暮らしの生活だったので、精神的な面でも苦難の期間であった。然し厳しい環境はかえって私を強くしてく

まとめて第三歌集『乱山集』を出した。この会報原稿を書くために読み返しているが、収載した九四一首のどの歌も懐かしい。

その中から数首を記す。

○裏山に今日も来て啼く山鳩を聞きて朝の授業始めぬ
都会の学校では経験の出来ないのどかさであった。

○下校時間過ぎて帰らぬ生徒等に吹雪つるをマイクにて告ぐ

冬の厳しさは想像以上であった。米坂線も時折不通

になったりした。

○ひとつづつ階を増やして玄関を出る雪の階七つとなりぬ

或る朝、宿舍の入口の戸が吹雪で埋まり、外に出られず、二階の窓から出た事があった。入口の階段も数を増して行つた。まさに穴ごもりの生活であった。

○下刈り作業の昼の休みに水飲むと空罐持ちて谷に下りぬ

学校林の下刈り作業は楽しかった。或る時、作業を

サボリ溪流で岩魚獲りをした生徒の某君から、作業終了直後に魚数匹を貰い、叱るタイミングを失った。今ではなつかしい思い出である。

○茹で上げしほどの香りは山のかをり親しみ食ひて山の町に住む

私は暇ある毎に山や溪谷を歩いた。時には釣りを楽ししみ山菜採りをし、興があれば油絵も画いた。

その意味でも小国の風土は思い出深く忘れ難い所でもある。

自然への目覚め



八嶋 幸子 先生

(昭和五十八年〜六十年)

短期間でしたがそれでも強烈な印象が残っています。

春夏秋冬、四季折々に自然が織り成す装いは素晴らしく十二分に堪能した日々でした。

特に秋の紅葉は、あたたかも極上の料理を口にしていくかのように、初めから終

わるまでドツブリと秋の色に浸ることができました。

また、春になれば一気に木々の芽吹きが始まり華やかになる様子を味わいました。

秋ほどの賑わいや、きらびやかさはありませんが、しつとりとした中に控えめな模様がでてとてもよく、私の心の原風景のひとつになりました。

樽口峠より望む飯豊連峰の全景も素晴らしく、他の人たちに大きな声で伝えたいと思つたものです。

あーそうそう、こんな珍

思っています。

授業はやり易く一斉指導の下、集中してまじめに取り組んでくれて日々充実していました。授業や部活動、修学旅行と、生徒や同僚と楽しく送れたことを今でも思い出します。

学校の現場も複雑になり大変さもあるでしょうが、人と人との和を大切に更なる発展をお祈り申し上げます。ありがとうございます。

おたより コーナー

雪国小国から北の国へ



宮下(小関)洋子
(昭和四十一年度卒)



改めて会報を見てみると私は、第十八回卒業で、今年が五十九回になりますか？月日のたつはやさに驚かせられます。クラス仲間の名前を見れば、すぐ旧姓が頭に浮かび、一人声を出して呼んで見たりしています。しばらく昔をしのんでいます。やはり故郷っていいですね。在校中は、学習面は、かなりおろそかでした。でも

部活に関しては、スキー部に在籍し、かなり厳しい練習に励みました。当時小国高校スキー部は、県内でも強いチームでしたので、県の強化合宿などにも参加したものです。特に思い出深いのは、カイラギ沢の春合宿です。小国町の人々でも、行った事のある方がどれだけいますか？もしかしたら、あの頃のスキー部員だけではないでしょうか？たしか五月だったと記憶しています。沢の半面は、真っ白な雪、その反対は高山植物の花が咲き誇り、それは素晴らしい景色でした。

スキー部に入っていた事もあり、東京オリンピックの聖火リレーで町を走った事なども良い思い出です。

強いチームでしたから、国体、インターハイにも出場しました。卒業する二月スキー大会出場のため、青函連絡船に乗り北海道へ行き函館に着きました。感動しました。空の高さ、空気の美しさ、鼻毛が立つほどの寒さ。こんなところに住みたいと思いました。夢でした。ニセコ、ルスツ、小樽など近くにありましたからね。本当に憧れました。

私は今、北の空の玄関千歳市に住んでいます。縁があり結婚して三十四年になります。

私は、北海道の二月が好きです。寒い日の朝、外を見ると、まわりの木々に霧水がつき、キラキラひかっています。もっと寒い日は、ダイヤモンドダストでさらに輝きます。寒さを忘れしばらく見入ります。ただ一つ残念な事があります。小国にいる頃の楽しみ、しみ雪にならない事です。気温が低くて固まりません。凍み雪渡りができません。通学時の近道も魅力でした。

田舎に感謝



木村 義弘
(昭和四十七年度卒)



同級生の年賀状で「息子が昨秋結婚しました。もうそんな歳になりましたかね。」との便りに、最近流行の脳年齢は若いつもりでもそれなりの年月を感じる新年になりました。

卒業から三四年、東京での生活も小国で暮らした倍になろうとしています。が、実家から送られる山菜、漬物など四季の味覚に小国をいつも身近に感じています。さて、あらためて小国のことを思い起こすと、稲の成長を眺めながら長閑に過ぎる春から秋と、雪に覆われた長く厳しい冬が織り成す豊かな自然のサイクルが私を育んでくれた田舎であり、そのなかでも印象に残って

いることが幾つかあります。ひとつは秋の山々です。澄み渡った青空の下に燃えるような紅葉に染まった光景が脳裏に焼き付いており、これに勝るものは関東の名所にもないと自負しているところです。

つぎは昭和四二年の羽越水害で川が変わってしまったことです。夏休みにいつも水浴びや魚とりをして遊んでいた金目川が氾濫し、大量の土砂が川の深さや流れを変えてしまい従来のような遊びが出来なくなりました。帰省して川を見る度に「あの水害がなかったら」と残念に思います。

さらには飯豊山の万年雪、霧の朝に横根山の頂から見えた雲海などがいまも目に浮かびます。

三年間一緒に学んだ級友とはオリンピックの年に同級会を開こうと決めましたが、私自身が仕事の都合でお盆に休暇が取れず、疎遠になっっています。次回是非出席して旧交を温めたいと思っています。

おわりに、昨年の会報で母校存続の危機を知りました。関係者の努力に感謝するとともにこれを乗り越えてくれることを同窓生の一人として心から願っております。

ありがとうございました

後藤(仁科)悦子

(昭和六十年度卒)



高校時代の私は、中学から始めた陸上競技を通して、すばらしい恩師や掛け替えのない仲間と出会うことが出来ました。毎日の練習は、とても厳しくつらいものでしたが、共に励まし合い支え合える仲間や、適切に指導してくださる恩師のおかげで、とても充実した学校生活を送ることができたことに感謝しています。

社会人になって一・二年目に、職場の上司から、「お前達がインターハイや各大会に出場するからと、(小国高校から)寄付集めに来たから、俺はカンパしたんだぜ。」と言われ、はっとしたこと

を今でもはつきり覚えてます。私の知らないところで、部活動費、遠征費の寄付金など、いろいろな形でたくさんの方々からご協力を頂いていたんだという事実がわかったのは、この時でした。高校時代はそんな事は知らずに、ただ目の前の目標に向かって無我夢中の日々でした。私がそうやって部活動にのめりこむ事ができたのも、寄付をしてくださった方々、寄付を集めに各ご家庭を回ってくださった方々のお力があったからです。当時はそんな自覚はなかったけれど、たくさんの方々があつたから、いまの私があるのだなと思います。

いつの日か、お世話になった方々に、お礼を言う機会があればと思っていました。この場を借りてお礼申し上げます。

「本当にありがとうございました。」

お世話になったお返しのお気持ちから、小国陸協に入会し、スポ少の指導や地区対抗競技を手伝ってきました。

現在、小国町を離れまる三年が経とうとしています。

離れてみて、自然豊かで心の温かい方々がたくさんいる白い森の国おぐに町の良さを改めて実感しました。

部活三昧

舟山直幸

(平成二年度卒)



「今日の練習メニューは千メートルのインターバル十本やります。」とあっさり顧問の先生が部員に向かって言います。

私を含め先輩や後輩は「げ!!マジでが!」

と声には出せませんが、心の中でそう思っていました。練習が始まると、顧問の先生はストップウォッチを片手に、一段と気合が入ります。

「三分一・二・三・四!」

地獄のような秒読みが始まります。

「はっ・はっ・はっ!」

「イテーイテー!」

足がつる人がいたり、酸欠になって横になっている人がいたり本当に辛い練習を毎日の様にやっていました。そんな部活動でしたが、不思議とサボる人はいませんでした。

当時の小国高校の駅伝の実力は、山形県で十本の指に入るぐらいの実力がありました。私も含め、陸上部全体のモチベーションが、常に高い状態であったのだと思います。本気になって同じ目標に向かって部活動に取り組んだお陰で、先輩との人間関係や同級生、先輩との人間関係の大切さを

学んだ様に思います。

私はスキー部に所属し、春から秋は長距離、冬は本業のクロカンと、オールシーズン、本気の部活動に取り組んだ三年間でした。

クロカンでは、インターハイに三年間出場させていたただき、様々な事を学ばせていただきました。

長距離やクロカンを通じて出来た先輩や同級生、後輩、先生方に感謝しています。

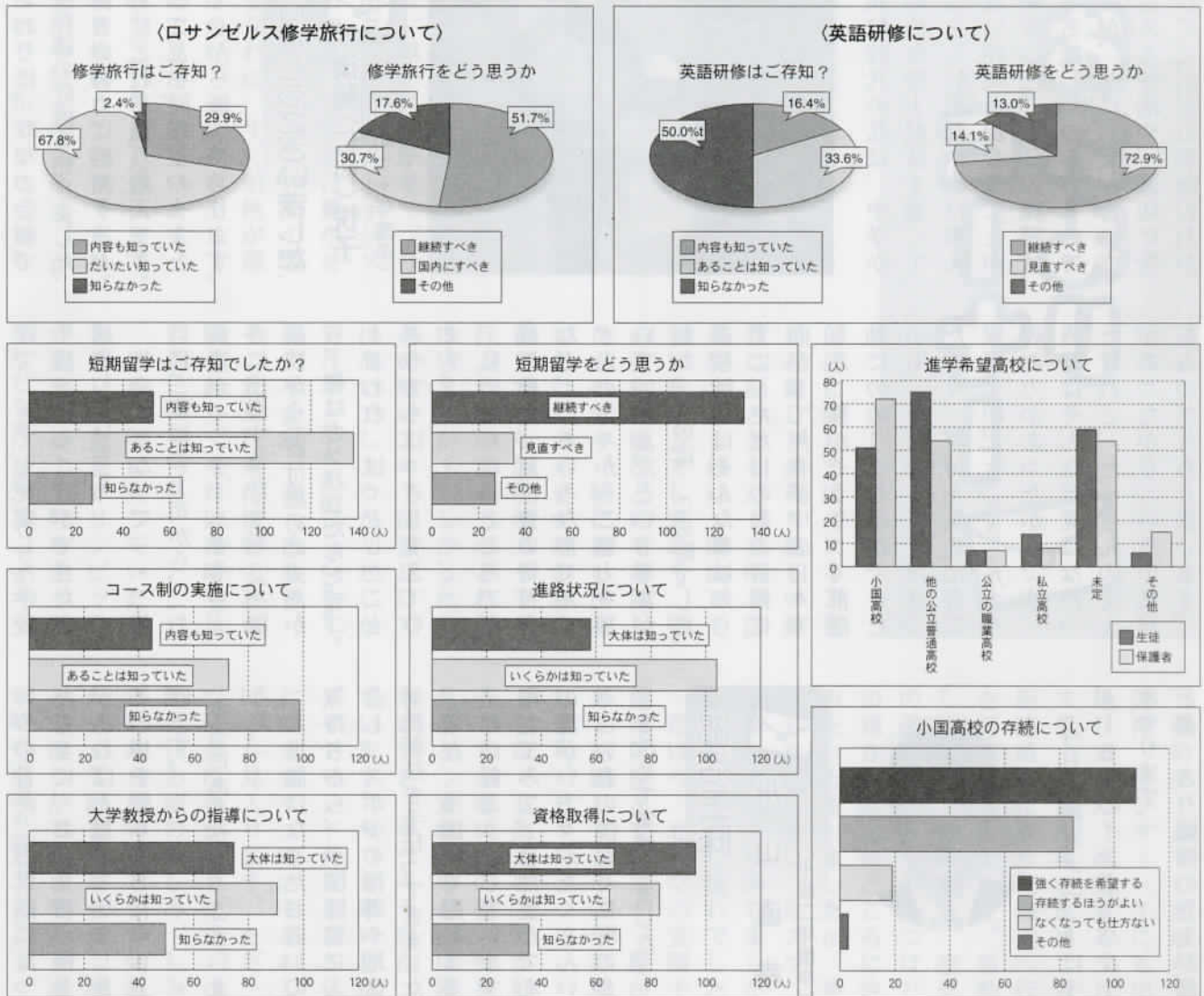
地元小国町で仕事をしていく中でも大切な財産を高校三年間でつくることができました。高校時代の友達は、一生の友人になると聞いたことがあります、それは本当の事です。

現に高校を卒業して十五年が過ぎましたが、良い友人ばかりです。

何か一つ、本気で打ち込めるものを見つければ、高校三年間を過ごすことが出来れば最高だと思います。

在校生の皆さん、魅力ある小国高校をめざして、元気の良い「小国っ子」になっ

小国高等学校同窓会 町内中学生とその保護者を対象とするアンケート調査集計



小国高校教諭 西塚 智之

日頃から頑張っている小国高校のことを多くの人に知ってもらいたいと思い、勝見前校長の許可を得て馳浩文部科学副大臣の招聘を計画しました。

面識はなく大学の母校の先輩と言うことを頼りに手紙を送ると、すぐに秘書の方からOKの連絡をいただきました。馳先生はレスリングでロス五輪出場、高校教師を経てプロレスラーに

はせひろし
馳 浩文部科学
副大臣来校講演

なり国会議員に転身された異色の経歴をお持ちです。県教育委員会にご配慮いただき、視察をかねて来校し「尊厳死を考える」という演題で講演されました。

内容は高校生にとって少し重いものでしたが質問形式で解りやすく話していただき、生徒も真剣に聞いておりました。与えられた人生をいかに生きていくかという、今後の将来を考える良いきっかけになったはずです。

馳先生は自身のHPで「小国高校でがんばる先生方のことを考える。教育現場の厳しい現実を目の当たりにした。文部科学省は、もっともっと地方の学校のために頑張らないと。条件不利地域で頑張る人たちがあつての日本の教育だ。」

小国高校の活動と頑張り が文部科学省まで確実に届いたと確信しております。講演実現までに竹田校長先生始め多くの方々にご尽力いただいたことに深く感謝申し上げます。

ワープロ実務検定二級合格者



2年 塚原 瑞貴

毎日欠かさない
練習で見事合格

ワープロ検定一級を取得するまでの道のりは、私にとつてとても長いものでした。二年生になり、初めて一級の問題を目の当りにしたときは、とても自信がなく、練習に励んだもののわずかな点で落ちてしまいました。今回の検定までは、学校での練習に加え、家族の協力もあり自宅での練習も毎日欠かしていませんでした。

その結果、見事に合格する事ができ、うれしく思います。周囲の協力なしではなしえなかった事です。喜びと共に感謝の気持ちで一杯です。私のプラスの点として、この資格を将来に活かしていきたいです。



1年 鈴木 大介

一年生初の二級

大きな壁も
努力で乗り越える
ことができた

僕のワープロ検定一級挑戦は本当に苦勞の連続でした。二級に合格した直後、一級の問題に挑戦し、僕は自信を失いました。二級とは比べ物にならない問題量、そして異常に難しい内容。ですが僕はあきらめず毎日パソコンに向かい必死で勉強しました。そして、三カ月の努力が実り、合格する事ができました。僕は合格したことよりも、それまでの努力が実った事が本当にうれしかったです。乗り越えられそうにない大きな壁も努力で何とかなる事を知りました。これは僕の後の人生に役立ついく事でしょう。

平成17年度 同窓会会計決算書

収入の部

(単位: 円)

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	収入済額	増 減	摘 要
会 費	1,000,000	0	1,000,000	724,960	△274,950	
入 会 金	240,000	0	240,000	240,000	0	@5,000 ×48名
繰 越 金	233,417	0	233,417	233,417	0	前年度繰越金
繰 入 金	100,000	0	100,000	0	△100,000	
雑 収 入	583	0	583	95,029	94,446	預金利子
合 計	1,574,000	0	1,574,000	1,293,406	280,504	

支出の部

(単位: 円)

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	支出済額	増 減	摘 要
需 要 費	40,000	0	40,000	26,060	△13,940	用紙、卒業アルバム等
会 議 費	250,000	0	250,000	185,148	△64,852	各種役員会諸経費等
通 信 費	220,000	0	220,000	175,920	△44,080	はがき・切手振込手数料
印 刷 費	100,000	0	100,000	34,965	△65,035	お知らせ印刷等
使用料賃借料	10,000	0	10,000	0	△10,000	
事務室維持費	10,000	0	10,000	0	△10,000	同窓会事務室維持諸経費
慶 弔 費	10,000	0	10,000	0	△10,000	弔電等
教育助成費	350,000	0	350,000	344,357	△5,643	アメリカ短期留学卒業記念品・講演謝礼等
支部助成費	100,000	0	100,000	76,000	△24,000	町内地区11支部
特別事業基金	50,000	0	50,000	0	△50,000	
事 務 費	30,000	0	30,000	25,000	△5,000	事務局
事 業 費	400,000	0	400,000	400,808	808	会報発行等
予 備 費	4,000	0	4,000	0	△4,000	
合 計	1,574,000	0	1,574,000	1,268,258	△305,742	

平成18年度 同窓会会計予算書

収入の部

(単位: 円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
会 費	1,000,000	1,000,000	0	年会費 @1,000×1,000名
入 会 金	235,000	240,000	△5,000	卒業生入会金 @5,000×48名
繰 越 金	25,148	233,417	△208,269	前年度繰越金
繰 入 金	100,000	100,000	0	特別事業基金より繰入
雑 収 入	852	583	269	預金利子等
合 計	1,361,000	1,574,000	△213,000	

支出の部

(単位: 円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
需 要 費	30,000	40,000	△10,000	用紙、卒業アルバム等
会 議 費	200,000	250,000	△50,000	各種役員会経費
通 信 費	200,000	220,000	△20,000	はがき・切手振込手数料
印 刷 費	70,000	100,000	△30,000	お知らせ印刷等
使用料賃借料	5,000	10,000	△5,000	
事務室維持費	5,000	10,000	△5,000	
慶 弔 費	10,000	10,000	0	
教育助成費	300,000	350,000	△50,000	アメリカ短期留学卒業記念品・講演謝礼
支部助成費	100,000	100,000	0	町内支部助成
特別事業基金	50,000	50,000	0	
事 務 費	30,000	30,000	0	
事 業 費	350,000	400,000	△50,000	会報発行等
予 備 費	11,000	4,000	7,000	
合 計	1,361,000	1,574,000	△213,000	

宮下 洋子 井元 豊子 須貝 善蔵 近 健博 新国 光榮 斎藤 初男 善木 周吉	昭和42年度卒業 (第十九回)	佐藤 徳子 渡辺 節子 今井 文子 鈴木 のぶ子 平田 雪子 野沢 ヒデ子 菅原 謙二 瀬水 美重子 森下 美知子 舟山 美穂子 安部 俊雄 栗田 寛美 佐藤 節雄 佐藤 悦子 嶋崎 美紀子 飯田 健二 高力 公二 駒澤 堅一 高橋 実 丹 四郎 舟山 享二 見川 文雄	田村 敏二郎 舟山 茂 丸山 民子 渡辺 美佐枝 柳沼 恵子 井浦 千重子 伊藤 善一 本間 正美	昭和44年度卒業 (第二十一回)	斎藤 敬子 坂上 幸子 伊藤 茂美 今 寛二 二宮 武 藤田 千賀子 小関 幸江 半田 恵美子 杉山 正	昭和45年度卒業 (第二十二回)	五味 幸子 大城 松枝 金 隆 佐藤 慎一 塩川 一義 舟山 忠夫 棚田 栄子 小松 きの 木村 英彦 今野 武 佐藤 義昭	昭和46年度卒業 (第二十三回)	市川 芳巳 川上 光二 斎藤 勝男 伊藤 正行 佐藤 義昭 鈴木 清子 伊藤 幸治 田宮 幸子 七島 英子	昭和47年度卒業 (第二十四回)	木村 義弘 佐藤 武彦 齋藤 悦子 齋藤 とみ子 松永 美智子 後藤 恵子 伊藤 清美 伊藤 正和 舟山 正美 中村 美智子 秋山 登枝子 高橋 幹雄 木村 博子 菊池 のり子 片桐 英二 木村 利明 佐藤 重則 高橋 正之 奈良橋 渉	昭和48年度卒業 (第二十五回)	今 信彦 盛田 信明 会田 信康 齋藤 恭子 佐藤 京子	昭和49年度卒業 (第二十六回)	木村 雄二 市川 幸雄 斎藤 敏弘 佐藤 新吾 塚原 隆一 古川 睦子 内田 勉 佐藤 幸弘 渡辺 幸弘 伊藤 里智 富田 秀智 井上 秀子 竹田 百合子	昭和50年度卒業 (第二十七回)	木村 義弘 佐藤 武彦 齋藤 悦子 齋藤 とみ子 松永 美智子 後藤 恵子 伊藤 清美 伊藤 正和 舟山 正美 中村 美智子 秋山 登枝子 高橋 幹雄 木村 博子 菊池 のり子 片桐 英二 木村 利明 佐藤 重則 高橋 正之 奈良橋 渉	昭和51年度卒業 (第二十八回)	伊藤 喜美男 仁科 正栄 今 きよ子 土田 恵子 佐藤 義之 伊藤 公子 伊藤 文夫 寺沢 ひとみ 佐藤 順子	昭和52年度卒業 (第二十九回)	川村 吉弥 伊藤 扶佐子 押切 由紀子 梅津 房子 原田 千鶴子	昭和53年度卒業 (第三十回)	栗田 ゆり 栗田 俊明 佐々木 保江 伊藤 恭広	昭和54年度卒業 (第三十一回)	斎藤 勉 千田 みどり 佐藤 良子 小野 泰浩 斎藤 昌幸 村田 由香 斎藤 権市	昭和55年度卒業 (第三十二回)	矢部 多圭義 須貝 美和子 斎藤 みどり 後藤 千鶴子 須貝 はるみ	昭和56年度卒業 (第三十三回)	笠原 章子 佐藤 敦之 須貝 敦之	昭和58年度卒業 (第三十五回)	佐藤 雅子 正田 弘幸 伊藤 久美子 桜井 洋子	昭和59年度卒業 (第三十六回)	佐藤 靖彦 桜井 由幸 須貝 篤志 渡辺 重行	昭和60年度卒業 (第三十七回)	今 恵り子 川村 えり子 益田 昭浩 片桐 良子 舟山 克美 後藤 悦子 横山 尚美 斎藤 三千代	昭和61年度卒業 (第三十八回)	佐藤 一幸 今 美智代	昭和62年度卒業 (第三十九回)	伊藤 友史子 青木 毅 金 友史子 渡辺 佳久 渡辺 保 舟山 直美 松田 牧子	昭和63年度卒業 (第四十回)	小林 津 小部 誓司 斎藤 和則	平成2年度卒業 (第四十一回)	小林 誠 鈴木 かおり	平成4年度卒業 (第四十四回)	小関 紀之 小関 華子 井上 優子 渡辺 祐子 佐藤 めぐみ	平成5年度卒業 (第四十五回)	安部 奈緒子 高野 和徳	平成6年度卒業 (第四十六回)	伊藤 竜一 栗田 敏 神保 潤一	平成7年度卒業 (第四十七回)	須貝 ルミ	平成8年度卒業 (第四十八回)	高野 里奈 本間 貴之	平成9年度卒業 (第四十九回)	井上 久也	平成12年度卒業 (第五十二回)	竹田 一平	平成13年度卒業 (第五十三回)	丸山 久絵	平成16年度卒業 (第五十六回)	駒沢 瑞美 佐藤 蘭子	平成19年 二月二十一日現在
--	--------------------	--	--	---------------------	--	---------------------	--	---------------------	---	---------------------	--	---------------------	--	---------------------	---	---------------------	--	---------------------	---	---------------------	--	--------------------	-----------------------------------	---------------------	---	---------------------	--	---------------------	-------------------------	---------------------	-----------------------------------	---------------------	----------------------------------	---------------------	--	---------------------	----------------	---------------------	--	--------------------	------------------------	--------------------	----------------	--------------------	--	--------------------	-----------------	--------------------	------------------------	--------------------	-------	--------------------	----------------	--------------------	-------	---------------------	-------	---------------------	-------	---------------------	----------------	-------------------

地域・町民から愛される学校をめざして

生徒会長 山口 将 樹



私たち小国高校生徒会では、地域・町民に愛され、明るい学校、清らかな街を目指し、次の三つのことに力を入れて取り組んでいます。

一つ目は、挨拶です。校内での挨拶はもちろん、校

外でも町民の方に挨拶ができるようにしていけば、いいと思います。町民の方と挨拶ができれば、町民の方も生徒も気持ち良くなると思います。挨拶をされて気分が悪くなる人はいないので、今まで以上に挨拶ができるようにしていきたいです。

二つ目は、服装です。い



ボランティア“おくに(舞波)ワールド”の小・高生通学合宿

くら校内できちんとしていても登下校中にだらしない格好をしていては、だらしない学校だと思われる、愛される学校にはならないと

平成19年3月卒業予定者進路状況について

小国高校進路指導課

1. 進学

※合格者欄は延べ人数。()内は実人数。

	男子		女子		合計	
	希望	合格	希望	合格	希望	合格
四年制大学	9	10(9)	4	4(4)	13	14(13)
短期大学	0	0	5	4(4)	5	4(4)
専門学校	4	4(4)	5	7(7)	9	11(11)
合 計	13	14(13)	14	15(15)	27	29(28)

注：専門学校合格者には第2希望を含む。

(合格先)

四年制大学

山形大学(1)・東北公益文科大学(3)・仙台大学(1)・新潟医療福祉大学(1)・金沢工業大学(1)・神奈川工科大学(1)・立正大学(1)・東日本国際大学(1)・千葉工業大学(1)・亜細亜大学(1)・東北福祉大学(1)・東北芸術工科大学(1)

短期大学

米沢女子短期大学(2)・山形短期大学(2)

専門学校

国際福祉医療カレッジ(1)・仙台医療福祉専門学校(1)・東亜和裁士育成学院(1)・東京法律専門学校(1)・東洋医学研究学院(1)・新潟デザイン専門学校(1)・山形Vカレッジ(1)・代々木アニメーション学院(1)・カワイ音楽学院(1)・新潟リハビリテーション専門学校(1)・東北理工専門学校(1)

2. 就職

※()内は町内出身者、内定は延べ人数。

	男子		女子		合計	
	希望	内定	希望	内定	希望	内定
小国町内	6(5)	6(5)	8(8)	8(8)	14(13)	14(13)
置賜管内	2(0)	2(0)	2(2)	3(3)	4(2)	4(2)
管外・県外	0	0	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)
合 計	8(5)	8(5)	12(12)	12(12)	20(17)	20(17)

(内定先)

小国町内

東芝セラミックス(8)・荒川興業(2)・井上製作所(1)・白洋社産業(1)・花のひらの(1)・金十商店(1)

置賜管内(小国町内を除く)

長井石油(1)・うめや(1)・米沢合同運送(1)・登起波牛肉店(1)・いいで福祉会(1)

置賜管外・県外

キタカタ(1)・ホテル清風苑(1)

(H19.2.19現在)



ボランティア“さくら”の福祉施設訪問

思います。一人でもだらない人がいると学校全体が悪いイメージになってしまいます。そんなことがないように一人一人自覚を持てることで愛される学校に近づくと考えます。

最後に、地域行事に積極的に参加することです。ボランティア活動などに参加して地域に貢献したいです。温かく見守ってくださる地域の方々に、少しでも恩返しができるようにしたいです。

編集後記

今年の冬は、昨年の「十八年豪雪」とは違って変わって少雪の暖冬となりました。町内の積雪は、昨年の三分の一以下になっています。毎日生活するには大変快適なのですが、単純に喜んでばかりはいられない状況のようです。

ニュースでは、「異常気象」「地球温暖化」などの文字が頻繁に報道され、今世紀末には地球の気温が六度くらい上昇すると言われていています。気温が一度上がると緯度が百メートル下がったのと同じで、現在の東京の気温は、百年前の鹿児島と同じなのだそうです。

原因は色々考えられますが、美しい小国町を美しくするために、ゴミの分別や身近な省エネ対策等、できることから始めていかなければならないと感じている今日この頃です。(原田)

(編集委員 栗田金男・神保たえ子 駒澤堅一・原田千鶴子)